

## 教育実習Ⅶ（小学校）の報告

広島文教女子大学人間科学部

初等教育学科 教授 村上典章

### 1 はじめに

教育実習Ⅶは、次年度の小学校教員免許必修の教育実習（教育実習Ⅱ・Ⅲ）に先駆けて、小学校教育の実際にふれ教職への自覚を高めることを目的として実施する。その目標は、学校と教員の仕事、子ども、基本的な指導技術についての理解を深め、教育研究課題と自己を発見し、教職に就くことへの自覚や使命感を高めることである。この実習には、実習体験を通して自己の適性を判断する、多様な文章の添削指導により文章表現力を高める、学習会を通して教育研究の視点や協議のスキルを身につける、宿所での共同生活やグループワークを通して主体性、協同性を育て自己の課題に対する早期取り組みの契機とする等の点で意義がある。

### 2 実施のスケジュール

項目	時期	主な内容
事前学修 (学内)	4月～6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習の意義、目的、心構え等を再確認する。</li> <li>・3年生からの紹介を聞き、実習校を選択、決定する。</li> <li>・実習校毎に実習長を中心とする役割分担を行い、実習校、宿所等に関する情報収集、事前学修を行い、パンフレットを作成し、教育委員会、実習校、宿所へ送付する。</li> <li>・文章講座「自己紹介の書き方」、「目標の書き方」、「観察・記録のしかた」、「礼状の書き方」を参考に、添削指導を受けながら完成する。</li> <li>・「子どもとの関わり方について」、「特別支援教育について」等の講義を受け、理解を深める。</li> </ul>
観察実習 5日間 (学外) *宿所へは前日 (日曜日) 移動	6月第3週	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習の内容は実習校により計画される。内容の例として、①校長、教頭、教務主任、生徒指導主事、養護教諭講話、②全学年の授業観察、③スポーツテスト、環境整備作業（教室掲示、プール掃除）等の補助、④学級活動（レクリエーション）の計画、指導等が挙げられる。</li> <li>・宿所では、宿泊担当教員の添削指導を受けながら教育実習日誌等の記録をつけ、学修会で討議することで学んだことを客観化、共有化しながら理解を深める。また、生活面で分担された役割を果たす。</li> </ul>
事後学修 (学内)	6月～7月 報告会は 7/19に実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習校の全教職員、教育委員会教育長、宿所管理人、その他必要に応じて礼状を作成、送付する。</li> <li>・各自の実習を振り返り、報告会レジュメと報告書を作成し、報告書は教育委員会、実習校へ送付する。</li> <li>・各実習校の実習長、副実習長による実行委員会を中心に報告会を実施する。報告会では、個人の成果と課題、グループ毎のテーマについて協議し、学んだこと等について発表する。</li> </ul>

### 3 活動の概要

#### (1) 実習校並びに宿所

実習校	人数	宿所
山県郡北広島町立新庄小学校	10名	グリーンヒル大朝
山県郡北広島町立大朝小学校	11名	グリーンヒル大朝
山県郡北広島町立豊平小学校	13名	どんぐり荘
安芸高田市立船佐小学校	6名	エコミュージアム川根
安芸高田市立来原小学校	7名	エコミュージアム川根
安芸高田市立川根小学校	7名	エコミュージアム川根
呉市立下蒲刈小学校	8名	松寿苑

#### (2) 教育実習を通して学んだこと（学生の報告書より抜粋）

- ・この実習を通して、今まで大学で学んできたことがより具体化された。大学での模擬授業や講義で、臨機応変な対応のあり方や授業での発問の仕方などたくさんを学んできたが、実際の教育現場ではどのように対応したり、発問したりしているのか私自身イメージができなかった。実際に教育現場で、教師の対応の仕方や発問の仕方を見て、対応の柔軟さや前もって準備する授業計画の大切さが分かった。特に発問の仕方については、先生によっていろいろな工夫がされていた。教師の発問は、児童の学びに大きく関わることを実感できた。
- ・私が実習前に想像していたより、児童はレベルが高くて驚いた。6年生の授業では、45分間を通して集中しており、先生の発問だけでなく、他の児童の発言に対しても反応を示していた。休み時間には、ほとんどが室内で宿題の直しをしたり係の仕事をしたりして過ごしていた。クラスの中に決まったグループがあるわけではなく、誰とでも会話をしていた。また、私たち実習生に対しては敬語を使っており、さすが最高学年だと思った。学年によってクラスの雰囲気も違い、それが実際に分かったのでよかった。
- ・私が実習に行かせていただいた学校では、児童が授業に集中できるように、教室の前には掲示物はほとんどなく、時間割を書く黒板にはカーテンがついていた。教室全体を見ても掲示物が少なかったように思う。これは前に掲示物があることで気が散ってしまう児童もいるため、児童全員が授業に集中できる環境をつくるための工夫である。授業の工夫だけでなく、児童が授業に集中できる環境を整えることも必要だと感じた。
- ・この実習を通して、教師という職に対しての思いが強くなった。また、教職は人に感動や喜びを与え、人生に大きな影響を与える職業だと思った。実際の教育現場は、私の予想以上に児童一人ひとりのことを考えており、また先生方は児童の現状を把握し、柔軟かつ的確に対応していらしかった。その姿から、私もそのような力を身につけたいと思った。

### 4 成果と課題

今年度は、昨年度の成果を生かし、1日2コマ連続の事後報告会、3年生のアシスタントを継続した。その結果、2年生のみならず3年生の自己評価も満足度が高かった。ただ、2年生がこのアシスタントをいかに活用するかという点では課題が残った。また、次年度は実習生が20名増えるので、児童数の減少している実習校への配分等が大きな課題となる。